

様式 9

「川づくり団体」部門

## 河川基金助成事業

「藤前干潟クリーン大作戦・流域圏交流事業」

助成番号： 2024 - 6112 - 011

藤前干潟クリーン大作戦実行委員会  
実行委員長 坂野 一博

2024 年度

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2024-6112-011	藤前干潟クリーン大作戦・流域圏交流事業	藤前干潟クリーン大作戦実行委員会 実行委員長 坂野 一博
<b>活動の目的</b>		
<p>2024年度の河川基金助成事業においては、「藤前干潟の清掃活動を継続してごみを減らす」、「マイクロプラスチックや釣りごみ等の新たに問題となっているごみの現状を広める」、「藤前干潟や流域の現状を広め、生活や社会から出るごみについて考え行動する機会を提供し、流域の河川環境保全を推進する」という目的を掲げた。</p>		
<b>事業テーマ</b>	河川や流域への理解を深める活動	
<b>【実施内容】</b>		
<p>(1) 第40回'24春の藤前干潟クリーン大作戦(2024年5月24日(土))の開催                      実施内容: ごみ清掃、土岐・庄内川の水質調査、マイクロプラスチック収集等                      参加人数: 1,425名※対象はどなたでも                      ごみ収集量: 747袋(45Lのごみ袋、内マイクロプラスチックは54袋)</p> <p>(2) 第41回'24秋の藤前干潟クリーン大作戦(2024年10月19日(土))の開催                      実施内容: ごみ清掃、土岐・庄内川の水質調査、干潟の生きもの観察会、マイクロプラスチック収集                      参加人数: 1,987名(干潟の生きもの観察会には51名)※対象はどなたでも                      ごみ収集量: 1,028袋(45Lのごみ袋、内マイクロプラスチックは4袋)</p> <p>(3) 三郷のクリーン大作戦(2024年10月26日(土))への参加                      参加内容: ごみ清掃活動、土岐・庄内川の上流と下流の交流                      参加人数: 当実行委員会から3名</p> <p>(4) 第12回ごみと水を考える集い(2025年2月8日(土))の開催                      実施内容: 伊勢湾流域の海へ流れるごみの現状の講演、各地のごみについての活動報告と意見交換、ごみが生まれない社会創りの7項目の採択、藤前干潟を見るエクスカージョン                      参加人数: 56名(エクスカージョンには12名)※対象はどなたでも</p> <p>上記の(1)~(4)を実施するにあたって、河川管理者(国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所、愛知県尾張建設事務所)や環境省中部地方環境事務所、名古屋市からの指導・講師派遣、港環境事業所からのごみ処理、そして企業や市民団体・名古屋港管理組合からの仮設トイレ設置、物資提供等の様々な支援をいただいた。</p>		
<b>【成果】</b>		
<p>2回の大規模清掃「藤前干潟クリーン大作戦」を計3,400人を超える多くの参加者と一緒に継続実施し、多くのごみを収集することができた。新しく取り組んでいる<u>マイクロプラスチックについては大規模な収集を行い、58袋(45Lのごみ袋)を取り除くことができた。</u>釣りごみについては、「第12回ごみと水を考える集い」において釣りごみ対策を取り上げ、釣りごみについて知ってもらう機会を設けた。                      これらの活動を通して、<u>藤前干潟や流域、川や海のごみ等の現状を見て、知って、考えて、行動する機会を非常に多くの人に提供でき、流域の河川環境保全の推進に貢献できた</u>と考えている。</p>		
<b>【今後の展望】</b>		
<p>20年もの長期にわたって継続してきた清掃活動「藤前干潟クリーン大作戦」は、多くの関係者の協力によって、地元住民および流域の恒例行事として定着し、2024年度も多くの人々の参加を得ることができた。一方で、実行委員会の構成団体や関係団体のメンバーには高齢化という問題が差し迫ってきており、<u>今後も長く活動を継続していくために、実行委員会の運営の一部を担える若い世代の新規の参入を引き続き目指すとともに、負担軽減策を今後も工夫して考え、体制を整えていきたい。</u>                      また、清掃活動を行ってごみを減らしてもごみは次々やって来てなくなることはないため、<u>清掃活動と普及啓発を地道に継続していくことが重要である。</u>さらに取組み始めた<u>マイクロプラスチックや釣りごみ問題に関わる活動も継続し、地域や流域の関係者とともに発展させて、藤前干潟とその流域のごみ削減を主とする環境改善とごみの生まれにくい社会づくりへの貢献を目指していきたい</u>と考えている。</p>		

※ポイントとなる事項に適宜アンダーラインを引いてください

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2024-6112-011	藤前干潟クリーン大作戦・流域圏交流事業	藤前干潟クリーン大作戦実行委員会 実行委員長 坂野 一博
成 事 業 実 施 成 果 の 自 己 評 価	<p><b>【当初目標の達成度】</b>                      申請時に記載した(1)～(3)の三つの目標についての達成度はそれぞれ以下のとおり。</p> <p>(1)藤前干潟の清掃活動を継続してごみを減らす                      2回の大規模清掃「藤前干潟クリーン大作戦」を開催し、計3,412人(延べ)の参加者を得て、計1,775袋(45Lのごみ袋)のごみを収集するという大規模な清掃活動を無事行うことができ、目標を達成できた。</p> <p>(2)マイクロプラスチックや釣りごみ等の新たに問題となっているごみの現状を広める                      マイクロプラスチックについては、藤前干潟クリーン大作戦の清掃活動の中で本格的な収集を行い、計58袋(45Lのごみ袋)を回収することができた。マイクロプラスチック問題については、2018年度より取組み、前年の2023年度より本格的に収集をしているが、今までの活動を知った参加者が自主的にマイクロプラスチックを拾っている姿も見られ、今までの普及啓発を含めた活動が実を結んでいると実感している。                      釣りごみ問題については、「第12回ごみと水を考える集い」において、藤前干潟の釣りごみ対策について取り上げ、現状を参加者と共有し、意見交換を行った。釣りごみの現状について知ってもらう機会を設けることができた。</p> <p>(3)藤前干潟や流域の現状を広め、生活や社会から出るごみについて考え行動する機会を提供し、流域の河川環境保全をより一層推進する                      2回の「藤前干潟クリーン大作戦」を開催し、藤前干潟に来て現状を見て考え、ごみを拾うという活動の場を3,400人以上の多くの人に提供することができた。また、「第12回ごみと水を考える集い」は56人の参加者があり、伊勢湾流域の海に流れるごみ調査の講演を聞くなどした。藤前干潟や土岐・庄内川流域、伊勢湾流域のごみの現状を広め、参加者との交流を深めることができた。この集いから得られた学びや気付き、動機、つながりなどが、それぞれの場所で活動する参加者に生かされ、流域の河川や海の保全を推進する活動の一助になっていると考えている。</p> <p><b>【活動の創意工夫点】</b>                      清掃活動に多くの人の参加を受け入れるために、駐車場確保・誘導や清掃時の安全確保について過去の経験を生かした上での議論・準備を重ねた他、関係各所への協力依頼を丁寧に行い、大規模清掃を開催した。清掃活動当日の運営スタッフについては、実行委員会メンバーである中部大学NPO・ボランティアセンターの学生が多数来て活動の大きな力になっている。車という交通手段をあまり持っていない学生が活動しやすいよう、交通手段を確保する工夫などを行っている。</p> <p><b>【地域や河川管理者との連携】</b>                      地元住民には協働の立場で藤前干潟クリーン大作戦に協力いただいた。また、藤前干潟に注ぐ河川の管理者である国土交通省庄内川河川事務所と愛知県尾張建設事務所には、活動に際して指導やアドバイス等の支援を受けた。環境省中部地方環境事務所にも活動の協力を受けた他、名古屋市とも非常に深く連携しており、環境局にはごみの回収と処理、熱中症対策物資提供の協力を受けるなどした。さらには、企業等からも仮設トイレ貸与や物資提供をしていただいた。これらの連携・協力により、多くの人が安全により良い活動をすることができた。</p> <p><b>【今後の展望】</b>                      20年の長きにわたる活動の継続により「藤前干潟クリーン大作戦」は地域や流域に根付き、多くの人の協力や参加を得られるようになった。多くの人が藤前干潟やその流域のごみの現状を知り、行動する機会を提供することによって、地域の藤前干潟への関心や親しみは深まり、受け継がれていくものとなっている。また、継続だけでなく、学生などの新規参加者の獲得や、マイクロプラスチックなどの新たな問題への取組みを行い、活動を発展させているが、今後も河川環境保全のためのより良い活動となるよう、体制づくりと活動の新たな工夫を目指していく。</p>	

## 1. 活動の概要

### 1.1 藤前干潟クリーン大作戦実行委員会の活動目的

土岐・庄内川、新川、日光川の河口にある藤前干潟（名古屋市港区および飛島村）は長年の市民活動によってごみ埋め立てを免れ、2002年11月に国設鳥獣保護区の指定とともにラムサール条約の登録地となった。日本有数の渡り鳥の飛来地である藤前干潟は、生命のつながりと私たちの暮らしのあり方を教えてくれる貴重な場所である。しかし、ラムサール条約登録当時の藤前干潟とその周辺の護岸は上流から流れてきたペットボトルやビニール袋、発泡スチロールなどのごみに覆われており、流域住民の良識が問われかねない状況にあった。

このような状況を改善するため、藤前干潟やその流域で活動していた私たちは2004年10月に「①ラムサール条約に恥じない藤前干潟にする」、「②子ども達が安心して遊べる干潟や川を取り戻す」、「③流域全体のごみや水のことを考えるネットワークを形成する」の三つの目標を掲げて「藤前干潟クリーン大作戦実行委員会」を結成した。その後、年2回の藤前干潟の大規模ごみ清掃活動「藤前干潟クリーン大作戦」を行いつつ、上下流域・伊勢湾でつながる団体と連携した活動を進め、流域一帯で「ごみゼロ」を目指してきた。この活動は、2024年度で21年目に突入した。

### 1.2 藤前干潟クリーン大作戦実行委員会の構成

2004年に「NPO法人エコストック実行委員会」と「土岐川・庄内川流域ネットワーク」、「NPO法人藤前干潟を守る会」、「リバーサイドヒーローズ・多治見さかなの会（現在は河川自然環境保全復元団体リバーサイドヒーローズ）」の土岐川・庄内川で活動する4市民団体を構成団体として藤前干潟クリーン大作戦実行委員会は発足した。その後、徐々に活動を広げ、2006年春に「NPO法人モリゾー・キッコロと環境活動を推進する会」が、2010年春に「庄内川川ナビ歩こう会」が、2011年6月に「IPG（産業廃棄物専門家集団）」が、2015年春に「かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議」、「土岐川・庄内川源流森の健康診断実行委員会（現在は土岐川・庄内川源流の森委員会）」、「名古屋市稲永スポーツセンター」、「なごや舞祭衆」、「一般社団法人Clear Water Project」、「萌木舎」、「中部大学ボランティア・NPOセンター」が、そして2016年4月に「名古屋野鳥観察館」が加わり、2017年3月には、「愛地クリーンプロジェクト」と「中部大学上野研究室」が加わった。

その後、2019年3月に「愛地クリーンプロジェクト」が、2019年6月に「なごや舞祭衆」が退会し、現在は15団体で活動している。

### 1.3 藤前干潟クリーン大作戦実行委員会のこれまでの取り組み

藤前干潟クリーン大作戦実行委員会の最も大きな活動である年2回実施の大規模清掃活動「藤前干潟クリーン大作戦」については、2024年度までに41回を企画し、雨天や新型コロナウイルス感染症感染拡大防止による中止はあったものの、参加者は延べ49,493名、収集したごみは45Lごみ袋で56,511袋に及んでいる（図1.1および表1.1参照）。

この他、土岐・庄内川や伊勢湾の上流、下流におけるごみ清掃活動に参加したり、流域で活動する人たちとごみと水を考える集いを開催したりするなど、上下流域との交流を図り、深めてきた（当実行委員会の歩みとこれまで取り組んだ活動については別紙1参照）。

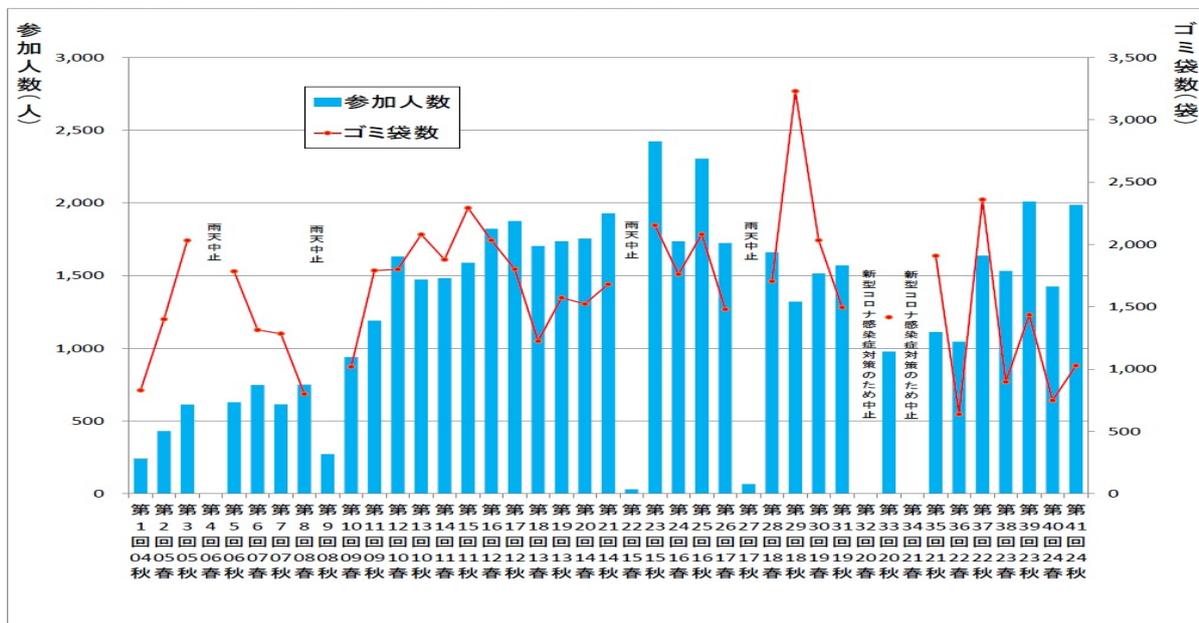


図1.1 藤前干潟クリーン大作戦の参加人数と収集したごみ袋数(45Lのごみ袋)の推移

回数・時期	参加人数	ゴミ袋数
第1回 04秋	240	830
第2回 05春	430	1,400
第3回 05秋	612	2,032
第4回 06春	雨天中止	雨天中止
第5回 06秋	628	1,784
第6回 07春	748	1,314
第7回 07秋	614	1,284
第8回 08春	750	800
第9回 08秋	271	雨天中止
第10回 09春	939	1,018
第11回 09秋	1,190	1,791
第12回 10春	1,632	1,800
第13回 10秋	1,474	2,080
第14回 11春	1,483	1,879
第15回 11秋	1,589	2,293
第16回 12春	1,821	2,034
第17回 12秋	1,876	1,802
第18回 13春	1,704	1,224
第19回 13秋	1,737	1,573
第20回 14春	1,755	1,523
第21回 14秋	1,928	1,681
第22回 15春	30	雨天中止
第23回 15秋	2,424	2,154
第24回 16春	1,735	1,761
第25回 16秋	2,305	2,081
第26回 17春	1,724	1,480
第27回 17秋	65	雨天中止
第28回 18春	1,661	1,704
第29回 18秋	1,321	3,231
第30回 19春	1,514	2,034
第31回 19秋	1,570	1,495
第32回 20春	新型コロナウイルス感染症対策の為中止	新型コロナウイルス感染症対策の為中止
第33回 20秋	977	1,416
第34回 21春	新型コロナウイルス感染症対策の為中止	新型コロナウイルス感染症対策の為中止
第35回 21秋	1,111	1,909
第36回 22春	1,045	637
第37回 22秋	1,638	2,360
第38回 23春	1,532	897
第39回 23秋	2,008	1,435
第40回 24春	1,425	747
第41回 24秋	1,987	1,028
合計	49,493	56,511

表1.1 今までの藤前干潟クリーン大作戦の参加人数と収集したごみ袋数(45Lのごみ袋)

## 2. 活動の内容

### 2.1 活動日・場所・目的・内容等

#### (1) 第40回'24春の藤前干潟クリーン大作戦の開催

日程：2024年5月25日（土）

場所：藤前干潟（土岐・庄内川、新川、日光川河口一帯）の藤前会場および名古屋市港区の8学区会場（明德、当知、高木、神宮寺、港西、野跡、福田、南陽（2会場））の計10会場

目的：①藤前干潟をラムサール条約に恥じない、ごみがなくきれいで安全な場所にする。

②藤前干潟のごみ問題の現状を広める。

③多種多様な立場の参加者間で交流を深める。

④藤前干潟やその流域の保全、ごみの生まれにくい生活について考える機会を提供する。

⑤マイクロプラスチック問題について普及啓発を図る。

内容：ごみ清掃活動、外来植物の駆除活動（一部の学区会場）、土岐・庄内川の水質調査（藤前会場）、マイクロプラスチックの収集（藤前会場）

主催：藤前干潟クリーン大作戦実行委員会

共催：庄内川・新川沿い（名古屋市港区）の各学区連絡協議会および各学区保健環境委員会

※藤前干潟ふれあい事業（事務局：名古屋市環境局）の協力事業

※海ごみゼロウィーク2024に参加

案内チラシ（別紙2参照）：以下を3,500部印刷・配布、ウェブサイト掲載



#### (2) 第41回'24秋の藤前干潟クリーン大作戦の開催

日程：2024年10月19日（土）

場所：藤前干潟（土岐・庄内川、新川、日光川河口一帯）の中堤会場および藤前会場、名古屋市港区の8学区会場（明德、当知、高木、神宮寺、港西、野跡、福田、南陽（2会場））の計11会場

目的：(1)と同様

内容：ごみ清掃活動、土岐川・庄内川の水質調査（中堤会場）、干潟の生きもの観察会（中堤会場）、マイクロプラスチックの収集（藤前会場）

主催：藤前干潟クリーン大作戦実行委員会

共催：庄内川・新川沿い（名古屋市港区）の各学区連絡協議会および各学区保健環境委員会

※藤前干潟ふれあい事業の協力事業

※海ごみゼロウィーク2024に参加

※伊勢湾総合対策協議会・海洋ごみ対策検討会（岐阜県・愛知県・三重県・名古屋市）による取組み（ごみ調査、海ごみの普及啓発）同時実施

案内チラシ（別紙3参照）：以下を3,500部印刷・配布、ウェブサイト掲載



### (3) 三郷のクリーン大作戦への参加

日程：2024年10月26日（土）

場所：岐阜県恵那市三郷町野井（土岐・庄内川の最上流）

目的：土岐・庄内川の最上流である三郷の現状を知り、地元で活動している人々（三郷の川をきれいにする会）と交流を図る。

内容：ごみ清掃活動、土岐・庄内川の上流と下流の交流

### (4) 第12回ごみと水を考える集いの開催

日程：2025年2月8日（土）

場所：藤前会館（名古屋市港区藤前1-742）

※エクスカッションは環境省稲永ビジターセンターおよび名古屋市野鳥観察館で実施（ともに名古屋市港区野跡4-11-2）

目的：①藤前干潟と伊勢湾・三河湾の流域のごみと水について活動する人々が集まり、交流を深める場を提供する。

②2024年3月に岐阜・愛知・三重の三県によって策定された「伊勢湾流域圏海洋ごみ対策推進広域計画」に基づいて、2024年秋に行われた海や川のごみ調査結果や普及啓発について知り、私たちのすむ伊勢湾流域のごみ問題について考える。

③各地でごみと水に関わる活動をしている人の報告を聞き、各地の現状や課題を知り、意見交換を行う。

内容：岐阜・愛知・三重の三県で行われた海や川のごみ調査結果および普及啓発に関する講演、各地での活動報告と意見交換、ごみが生まれにくい社会づくりを目指すアピール7項目の採択、藤前干潟を見るエクスカージョン（希望者のみ）

主催：藤前干潟クリーン大作戦実行委員会、土岐川・庄内川源流の森委員会、NPO法人土岐川・庄内川サポートセンター、22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会、NPO法人四日市ウミガメ保存会

案内チラシ（別紙4参照）：以下を500部印刷・配布、ウェブサイト掲載



## 2.2 活動に向けた事前の取り組み

### (1) 第40回'24春および第41回'24秋の藤前干潟クリーン大作戦

前年（2023年）の10月初めまでに、「第40回'24春の藤前干潟クリーン大作戦」と「第41回'24秋の藤前干潟クリーン大作戦」の開催日を決定し、前年の秋の藤前干潟クリーン大作戦開催時から翌年の開催日の周知をはじめ、より多くの人に藤前干潟クリーン大作戦に参加・協力してもらうよう努めた。

2024年1月より「第40回'24春の藤前干潟クリーン大作戦」の、2024年6月より「第41回'24秋の藤前干潟クリーン大作戦」の具体的な計画と準備をはじめ、毎月ほぼ1回の実行委員会のミーティングを行って活動の具体化を図るとともに、現地確認や現地整備（草刈り等）、管理者との調整、協力団体・機関への要請、広報（ホームページ掲載、チラシ送付等）、安全（熱中症含む）対策用品等の必要物品の調達、駐車場の確保等を行った。

### (2) 三郷の川のクリーン大作戦

主催者である「三郷の川をきれいにする会」と密に連絡を取り合い、参加した。

### (3) 第12回ごみと水を考える集い

第41回'24秋の藤前干潟クリーン大作戦終了後の11月から準備をはじめ、企画を立てた後、協力団体・機関への要請や登壇の要請、会場確保、広報（ホームページ掲載、チラシ送付等）、配布資料等作成などを行った。

## 2.3 活動の成果

### 2.3.1 参加人数および収集したごみの量等

#### (1) 第40回'24春の藤前干潟クリーン大作戦

10会場で計1,425名が参加した。収集したごみの量は45Lゴミ袋で計747袋（内、マイクプラスチックに特化して回収したのは54袋）であった。各会場における収集したゴミ袋数（45Lのゴミ袋）と参加者数の内訳は表2.1のとおり。また、参加団体および協力団体は以下であった。

<参加団体>

- 地元自治会—港区明德学区協議会、港区明德学区保健環境委員会、港区当知学区協議会、港区当知学区保健環境委員会、港区高木学区協議会、港区高木学区保健環境委員会、港区神宮寺学区協議会、港区神宮寺学区保健環境委員会、港区港西学区協議会、港区港西学区保健環境委員会、港区野跡学区協議会、港区野跡学区保健環境委員会、港区南陽学区協議会、港区南陽学区保健環境委員会、港区福田学区協議会、港区福田学区保健環境委員会
- 市民団体等—NPO法人土岐川・庄内川サポートセンター、日本野鳥の会愛知県支部、NPO伊勢湾フォーラム、伊勢湾・三河湾継美隊、雨水と緑化を進める会、IPG（産業廃棄物専門家集団）、河川自然環境保全復元団体リバーサイドヒーローズ、庄内川ナビ歩こう会、土岐川・庄内川源流の森委員会、土岐川・庄内川流域ネットワーク、NPO法人藤前干潟を守る会、萌木舎、名古屋市野鳥観察館（東海・稲永ネットワーク）
- 会社・法人等—（株）GE、（株）エイテック、（株）大增コンサルティング、（株）大本組 名古屋支店、（株）おかむら、（株）木曾路、（株）小島組、（株）佐賀電算センター、（株）サンロード東海、（株）拓進工営、（株）フジトランスコーポレーション、（株）不動テトラ、（株）本間組、（株）丸二運送、（株）安江工務店、（株）ローソン、JFEエンジニアリング（株）、NTT西日本 東海支店、SEALIFE Trast、TGAP（株）、あおみ建設（株）名古屋支店、旭運輸（株）、イオンスタイル名古屋茶屋、エヌディーリース・システム（株）、（株）東建工営、グリーンサイクル（株）、鴻池運輸（株）名古屋定温流通センター営業所、興和（株）、コゾカテクノ（株）、城中工業（株）、住友理工（株）、大日本土木（株）、東亜建設工業（株）、東海緑化（株）、徳倉建設（株）、鳥羽磯部漁協、豊田合成（株）、トヨタ自動車（株）、豊田通商（株）、トヨタ紡織（株）、名古屋熱田ロータアクトクラブ、名古屋汽船（株）、日起建設（株）、日本栄船（株）、日本振興（株）、日本道路（株）中部支店、長谷工グループ、日比谷総合設備（株）・日比谷通商（株）、南医療生活協同組合、みらい建設工業（株）中部支店、メタウォーター（株）、吉田工機（株）、りんかい日産建設（株）名古屋支店
- 教育機関等—名古屋経済大学市邨高等学校、愛知県立南陽高校、聖カピタニオ女子高等学校、中部大学ボランティア・NPOセンター、Ambiente（名城大学のサークル）
- 行政機関・公共施設—愛知県建設局河川課、三重県環境生活部環境共生局大気・水環境課、環境省中部地方環境事務所名古屋自然保護官事務所、国土交通省庄内川河

川事務所・庄内川第一出張所、名古屋港管理組合、名古屋市環境局環境企画課、名古屋市環境局港環境事務所、名古屋市稲永スポーツセンター（（公財）名古屋市教育スポーツ協会）、名古屋市南陽プール（（公財）名古屋市教育スポーツ協会）、名古屋市南陽交流プラザ

○議員等一愛知県会議員直江弘文事務所、名古屋市会議員吉田茂事務所

○報道—テレビ愛知（海と日本プロジェクトin愛知県）、共同通信、あつたみなとホームページ

<協力団体>

仮設トイレ設置：大日本土木(株)、ごみばさみ・拡声器提供：豊田合成(株)、飲料水提供：イオンスタイル名古屋茶屋・藤前干潟ふれあい事業実行委員会（事務局：名古屋市環境局）、ごみ袋提供：公益社団法人名古屋清港会・名古屋港管理組合、医師派遣：愛知県保険医協会、ビニールグローブ提供：I P G（産業廃棄物専門家集団）、駐車場提供：名古屋市環境局・名古屋市上下水道局打出水処理センター・名古屋市緑政土木局港土木事務所、会場整備：庄内川安全協議会、ごみ処理：名古屋市環境局港環境事業所、その他：国土交通省庄内川河川事務所・環境省中部地方環境事務所・愛知県尾張建設事務所・名古屋市環境局・港区役所

実施場所	ゴミ数量(45L・袋)				粗大ゴミ		参加者(名)				うち庄内川 災害対策 協力隊
	不燃物	資源 (発火性 危険物)	可燃物	計	主なゴミ	計	学区	一般	行政	計	
明德学区	1	2	38	41	フラフープ	1	45		2	47	22
当知学区	3	1	52	56	なし		57		2	59	28
高木学区	4	1	40	45	なし		36		2	38	23
神宮寺学区	5	1	9	15	なし		34		2	36	計73
港西学区	1	1	9	11	バスケット 流木	1 2	92		3	95	
野跡学区	5	1	51	57	なし		114		3	117	
当知陸間 小計	19	7	199	225							
福田学区	3	1	27	31				18		18	
南陽① 福田ポンプ所前	10	5	65	80				57		57	
南陽② 南陽大橋 堤防下道路	9	3	147	159				83		83	
港区参加 学区関係 小計	41	16	438	495	内マイクロプラス ティッカー54		536	0	14	550	
中堤				0						0	
藤前第1	6	1	161	168	自転車			828		828	
藤前第2	1	2	14	17							
藤前第3	10	5	52	67	ダンス			47		47	
藤前・中堤 小計	17	8	227	252			0	875	0	875	
合計	58	24	665	747			536	875	14	1,425	

表2.1 第40回'24春の藤前干潟クリーン大作戦における各会場における収集したごみ袋数(45Lのごみ袋)と参加者数等

## (2) 第41回'24秋の藤前干潟クリーン大作戦

11会場で計1,987名が参加した。収集したごみの量は45Lごみ袋で計1,028袋（内、マイクロプラスチックに特化して回収したのは4袋）であった。各会場における収集したごみ袋数（45Lのごみ袋）と参加者数の内訳は表2.2のとおり。また、中堤会場で午後から開催した干潟の生きもの観察会には51名が参加した。

なお、参加団体および協力団体は以下であった。

### <参加団体>

- 地元自治会一港区明德学区協議会、港区明德学区保健環境委員会、港区当知学区協議会、港区当知学区保健環境委員会、港区高木学区協議会、港区高木学区保健環境委員会、港区神宮寺学区協議会、港区神宮寺学区保健環境委員会、港区港西学区協議会、港区港西学区保健環境委員会、港区野跡学区協議会、港区野跡学区保健環境委員会、港区南陽学区協議会、港区南陽学区保健環境委員会、港区福田学区協議会、港区福田学区保健環境委員会
- 市民団体等一三郷の川を美しくする会、NPO法人土岐川・庄内川サポートセンター、日本野鳥の会愛知県支部、雨水と緑化を進める会、一般社団法人海と日本プロジェクト岐阜、I P G（産業廃棄物専門家集団）、河川自然環境保全復元団体リバーサイドヒーローズ、庄内川川ナビ歩こう会、土岐川・庄内川源流の森委員会、土岐川・庄内川流域ネットワーク、NPO法人藤前干潟を守る会、萌木舎、名古屋市野鳥観察館（東海・稲永ネットワーク）
- 会社・法人等一(株)大竹組、(株)大本組 名古屋支店、(株)おかむら、(株)河野工務店、(株)小島組、(株)佐賀電算センター、(株)サングリーン、(株)サンロード東海、(株)ダイセキ環境ソリューション、(株)拓進工営、(株)豊田自動織機 全社係長会、(株)豊田自動織機 全社課長会、(株)豊通マシナリー、(株)坂角総本舗、(株)不動テトラ、(株)本間組、(株)丸二運送、(株)安江工務店、(株)ローソン、JFEエンジニアリング(株)、NDSインフォス(株)、NTT西日本東海グループ、あいおいニッセイ同和損害保険(株)、アイシン部長会、あおみ建設(株)、旭運輸(株)、アジア航測(株)、アジアプランニング(株)、新晃コンサルタント(株)、イオンリテール(株)東海カンパニー、エクシオ(株)東海支店、大增コンサルタント、鴻池運輸(株)、コヅカテクノ(株)、シーライフ名古屋、レゴランド・ジャパン、昭和土木(株)、住友理工(株)、大日本土木(株)、デロイト トーマツ グループ、東海緑化(株)、東京海上日動火災保険(株)名古屋自動車営業第一部、徳倉建設(株)、豊田通商(株)、トヨタ紡織(株)、日起建設(株)、日産化学(株)名古屋工場、日産物流(株)西日本支店物流センター、日清製粉労働組合 名古屋支部、日本栄船(株)、日本道路(株)、日比谷総合設備(株)、三井住友海上火災保険(株)、三菱電機トレーディング(株)、みなと医療生活協同組合、南医療生活協同組合、みらい建設工業(株)中部支店、村本建設(株)名古屋支店・名友会、明治安田生命保険相互会社 名古屋南支社、メタウォーター(株)、八千代エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)名古屋支店、
- 教育機関等一愛知県立惟信高等学校、中部大学ボランティア・NPOセンター、Ambiente（名城大学のサークル）
- 行政機関・公共施設一愛知県建設局河川課、愛知県環境局環境政策部自然環境課、

三重県環境生活部環境共生局大気・水環境課、環境省中部地方環境事務所名古屋自然保護官事務所、国土交通省庄内川河川事務所・庄内川第一出張所、名古屋港管理組合、名古屋市環境局環境企画課、名古屋市環境局作業課、名古屋市環境局港環境事務所、名古屋市上下水道局施設部施設管理課、名古屋市稲永スポーツセンター（（公財）名古屋市教育スポーツ協会）、名古屋市南陽プール（（公財）名古屋市教育スポーツ協会）、名古屋市南陽交流プラザ

○議員等一衆議院議員工藤彰三事務所、愛知県会議員直江弘文事務所、名古屋市会議員吉田茂事務所

○報道—テレビ愛知（海と日本プロジェクトin愛知）、あつたみなとホームニュース  
 <協力団体>

仮設トイレ設置：大日本土木（株）、ごみばさみ・拡声器提供：豊田合成（株）、飲料水提供：イオンスタイル名古屋茶屋・藤前干潟ふれあい事業実行委員会（事務局：名古屋市環境局）、ごみ袋提供：公益社団法人名古屋清港会・名古屋港管理組合、医師派遣：愛知県保険医協会、ビニールグローブ提供：I P G（産業廃棄物専門家集団）、AED貸出：港保健センター、駐車場提供：名古屋市環境局・名古屋市上下水道局打出水処理センター・名古屋市緑政土木局港土木事務所、会場整備：中川区正色学区消防団・庄内川安全協議会、ごみ処理：名古屋市環境局港環境事業所、その他：国土交通省庄内川河川事務所・環境省中部地方環境事務所・愛知県尾張建設事務所・名古屋市環境局・港区役所

実施場所	ゴミ数量(45L・袋)				粗大ゴミ		参加者(名)				うち庄内川 災害対策 協力会
	不燃物	資源 (発火性 危険物)	可燃物	計	主なゴミ	計	学区	一般	行政	計	
明德学区	2	0	4	6	釣り竿	2	43		2	45	25
当知学区	6	0	9	15			50		2	52	27
高木学区	3	2	10	15	段ボール		39		2	41	21
神宮寺学区	4	5	16	25	バイク1台、タイヤ1個	2	70		2	72	計73
港西学区	1	1	8	10	木材	2	65		2	67	
野跡学区	5	2	46	53			118		3	121	
当知陸間 小計	21	10	93	124							
福田学区	2	1	100	103				38		38	
南陽① 福田ポンプ所前	2	2	34	38				41		41	
南陽② 南陽大橋 堤防下道路	6	3	63	72				58		58	
港区参加 学区関係 小計	31	16	290	337	内マイクロプラス ティックー11		522	0	13	535	
中堤	25	9	387	421	冷蔵庫			511		511	
藤前第1	5	2	223	230	タイヤ、木くず			941		941	
藤前第2	1	1	38	内マイクロプラス ティックー4						0	
藤前第3				0						0	
藤前・中堤 小計	31	12	648	691			0	1,452	0	1,452	
合計	62	28	938	1,028			522	1,452	13	1,987	

表2.2 第41回'24秋の藤前干潟クリーン大作戦における各会場における収集したごみ袋数(45Lのごみ袋)と参加者数等

(3) 三郷の川のクリーン大作戦

当実行委員会より3名が参加した。

(4) 第12回ごみと水を考える集い

午前中に行ったエクスカージョンには12名が参加し、午後からの集いには市民団体、教育機関、行政機関、企業等からあわせて35団体56名が参加した。集いでは佐々木健司氏（八千代エンジニアリング(株)）と千葉賢氏（四日市大学環境情報学部教授）による「伊勢湾流域圏の海ごみ対策～三県連携の取組とメディアを用いた情報発信～」というテーマの講演を聞いた後、「それぞれの活動現場からのレポート」と題して各地の活動発表と意見交換を行った。また、集いの最後には、ごみが生まれない社会づくりを目指すアピール7項目を採択した。採択したアピール文と参加団体は以下のとおり（集いの講演および発表内容等は別紙5参照）。

<アピール文と参加団体>※実行委員会のウェブサイトに掲載



本日、名古屋市港区の藤前会館に山、川、里、海で活動する市民団体・教育機関・企業・行政等35団体、56人が参加して、第12回「ごみと水を考える集い」を開催しました。

私たちは、八千代エンジニアリング株式会社の佐々木健司氏と四日市大学環境情報学部教授の千葉賢氏の「伊勢湾流域圏の海ごみ対策～三県連携の取組とメディアを用いた情報発信～」の講演で伊勢・三河湾流域の海ごみの現状や海ごみ対策などについて学びました。

また、発表と交流では、長良川や藤前干潟における漂着ごみ・釣りごみの現状や取組について情報交換するとともに、それぞれの現場で活動しているそれぞれの人の思いを知りました。特に熱意ある若い人々の活動は私たちの大きな力になると感じました。

本日の参加者は「第12回ごみと水を考える集い」の参加をとおして、改めて自らのフィールドでの取組みの大切さと、伊勢・三河湾流域圏一体の清掃活動の強化と啓発活動が重要なことを再認識しました。今後も「ごみが生まれない社会づくり」の実現を目指しましょう。

私たちは、以下の7項目を呼びかけます。

- 子どもたちが安心して元気に遊べる水辺を取り戻しましょう。
- たくさんの生きものたちが生息する場を取り戻しましょう。
- ごみを見つけたら勇気を出して拾いましょう。
- ごみを捨てない大人と子どもをはぐくみましょう。
- ごみが生まれない社会をつくりましょう。
- 山、川、里、海それぞれで活動する人どうしの繋がりをつくりましょう。
- 流域全体で人と自然が共生する環境をつくりましょう。

2025年2月8日

第12回 藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い参加者一同

<第12回ごみと水を考える会に参加した教育機関・企業・市民団体等>

四日市大学環境情報学部、岐阜市立長良中学校、愛知県立惟信高等学校、中部大学NPO・ボランティアセンター、南陽学区区政協力委員会、南陽学区青パト防犯パトロール隊、鯨城・堀川と生活を考える会、一般財団法人みなど総合研究財団、NPO法人伊勢湾フォーラム、八千代エンジニアリング(株)、(株)東海環境調査、願隆寺、テレビ愛知（海と日本プロジェクトin愛知県）、オフィス楽都（海と日本プロジェクトin岐阜県）、榎並研究室、NPO法人四日市ウミガメ保存会、22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会、NPO法人土岐川・庄内川サポートセンター、萌木会、土岐川・庄内川流域ネットワーク、名古屋市野鳥観察館（東海・稲永ネットワーク）、NPO法人藤前干潟を守る会、藤前干潟クリーン大作戦実行委員会

<第12回ごみと水を考える会に参加した行政・公的機関>

名古屋市会、愛知県尾張建設事務所、名古屋市環境局環境企画課、環境省中部地方環境事務所、環境省中部地方環境事務所名古屋自然保護官事務所、国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所、名古屋港管理組合港営部港営課、名古屋港管理組合企画調整室

## 2.3.2 活動時の様子(写真)

(1) 第40回'24春の藤前干潟クリーン大作戦 (別紙7も参照のこと)



写真2.1 藤前会場の受付(助成の掲示)



写真2.2 藤前会場の受付(テレビ愛知メリ夫)



写真2.3 藤前会場の清掃活動①



写真2.4 藤前会場の清掃活動②



写真2.5 藤前会場のごみ収集所



写真2.6 藤前会場で収集したごみ



写真2.7 南陽学区会場の清掃活動①



写真2.8 南陽学区会場の清掃活動②

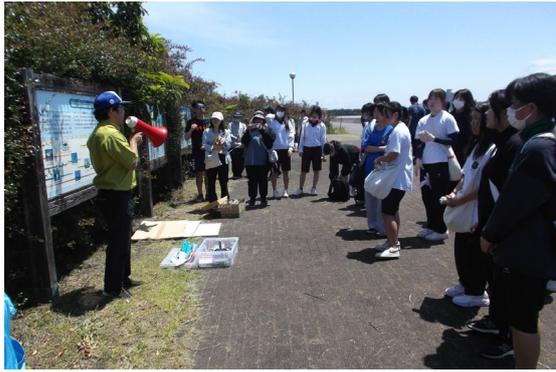


写真2.9マイクロプラスチック収集の説明



写真2.10マイクロプラスチック収集



写真2.11堆積していたマイクロプラスチック



写真2.12収集したマイクロプラスチック



写真2.13藤前会場で行った水質調査①



写真2.14藤前会場で行った水質調査②

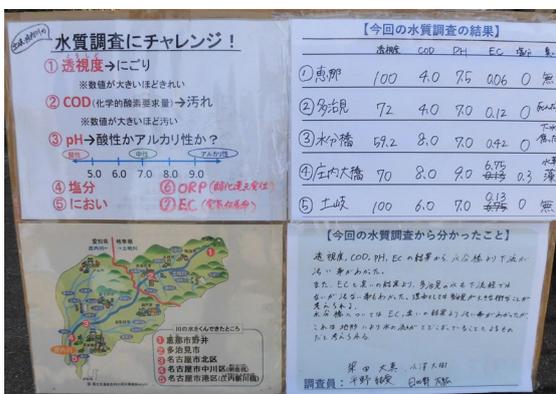


写真2.15水質調査の結果



写真2.16水質調査結果の報告

(2) 第41回'24秋の藤前干潟クリーン大作戦 (別紙8も参照のこと)



写真2.17中堤会場の受付(助成の掲示)



写真2.18中堤会場の受付(助成の掲示)



写真2.19伊勢湾流域圏の海ごみ啓発展示



写真2.20海ごみ啓発(テレビ愛知メリ夫)



写真2.21清掃活動班リーダーの打合せ



写真2.22中堤会場の清掃活動①



写真2.23中堤会場の清掃活動②



写真2.24中堤会場の清掃活動③



写真2.25中堤会場で収集したごみ①



写真2.26中堤会場で収集したごみ②



写真2.27藤前会場の受付(助成の掲示)



写真2.28藤前会場の清掃活動①



写真2.29藤前会場の清掃活動②



写真2.30マイクロプラスチック収集



写真2.31藤前会場のゴミ収集所



写真2.32中堤会場で行った水質調査①



写真2.33水質調査結果の報告



写真2.34干潟の生きもの観察会①



写真2.35干潟の生きもの観察会②

(3) 三郷の川のクリーン大作戦



写真2.36清掃活動の様子①

(4) 第12回ごみと水を考える集い



写真2.37清掃活動の様子②



写真2.38エクスカーションの様子



写真2.39エクスカーションのワークショップ



写真2.40集い会場の様子



写真2.41司会等を担当した中部大学の学生



(上左) 写真2.42名古屋市会吉田茂市会議員の挨拶



(上右) 写真2.43国土交通省庄内川河川事務所副所長の挨拶



(上左) 写真2.44環境省中部地方環境事務所野生生物課長の挨拶



(上右) 写真2.45愛知県尾張建設事務所維持管理課長の挨拶



(上左) 写真2.46名古屋市環境局環境企画課主幹の挨拶



(上右) 写真2.47佐々木健司氏(八千代エンジニアリング(株))による講演



(上左) 写真2.48 千葉賢氏(四日市大学環境情報学部教授)による講演



(上右) 写真2.49: 氏(岐阜市立長良中学校)によるごみ調査などの活動報告



(上左) 写真2.50 氏(愛知県立惟信高等学校)による藤前干潟清掃活動報告



(上右) 写真2.51 間部裕子氏(NPO法人藤前干潟を守る会)の釣りごみ対策活動の報告



写真2.52 加藤翔太氏(NPO法人藤前干潟を守る会)の釣りごみ対策活動の報告

### 3. 事業・活動の効果等

#### 3.1 活動の広がり、効果

##### (1) 藤前干潟クリーン大作戦

当実行委員会の最も大きな活動である大規模ごみ清掃活動「藤前干潟クリーン大作戦」については、2024年度も予定していた2回の藤前干潟クリーン大作戦を無事開催することができ、2024年度の清掃活動の参加者数は計3,412人(延べ)、収集したごみは45Lゴミ袋で計1,775袋であった。前年度より合計の参加者数は100人程度少なかったが(2023年度の合計参加者数は3,540人)、春・秋の藤前干潟クリーン大作戦ともに1,000人以上の多くの人の参加を得て、多くのごみを拾う活動をすることができた。

多くの参加が得られた理由としては、地元学区および市民団体、企業、行政の参加および協力が継続され、岐阜県や三重県など土岐・庄内川流域および伊勢湾流域の参加も継続したことが挙げられる。藤前干潟クリーン大作戦実行委員会は2004年秋に活動を開始して2024年度で20周年を迎えた。今まで地域や上下流、流域などのつながりを大事にしながらか活動を長く継続してきたことから、今も多くの人の参加や協力が継続して得られていると考えている。

藤前干潟のごみの状況については、2024年度は春の清掃活動で747袋（45Lのごみ袋）、秋の清掃活動で1,028袋（同）のごみを収集した。前年（2023年度）より収集できたごみの量は少なくなったが、多くのごみを収集することができ、河川環境を改善することができた。また、これらの多くのごみが藤前干潟の先の伊勢湾（海）に流れるのを防ぐことができ、「伊勢湾ごみ流出防衛最前線」とも銘打っている藤前干潟クリーン大作戦の役割は一定程度果たせたと考えている。

また、藤前干潟クリーン大作戦の大きな特徴は、地元住民や市民団体、教育機関、行政機関、企業、個人等の多種多様な立場の多くの人々が参加、協力していることである。これらの人々が藤前干潟クリーン大作戦という場所で同じ活動をする中で、交流が生まれており、それぞれの活動にも影響を与えている。2024年度の秋の藤前干潟クリーン大作戦では、伊勢湾総合対策協議会・海洋ごみ対策検討会（岐阜県・愛知県・三重県・名古屋市）による取組みがあわせて行われ、ごみ調査や海ごみの普及啓発などの活動も実施された。藤前干潟クリーン大作戦の活動は20周年を迎えて、新たな広がりも生んでいる。

20周年を迎えた今後も、当実行委員会の目標であるラムサール条約に恥じない、ごみのない藤前干潟を目指し、できるだけ多くのごみを回収して、河川、海、干潟、ヨシ原の保全を図るとともに、多くの人々が交流しながら藤前干潟や河川・海の環境を知ることのできる場として藤前干潟クリーン大作戦の活動を継続していきたい。

## (2) マイクロプラスチックに関する取組み

近年、世界的な問題となっているマイクロプラスチック（5mm以下のプラスチックごみ）については、当実行委員会では2018年度より「ごみと水を考える集い」で専門家から現状や課題を学ぶ機会を作った他、調査に協力し、試験的に回収の取組みを行うなどしてきた。この中で藤前干潟には他の場所と比べて多くのマイクロプラスチックがあるとの研究結果についても知ることとなり、取組みの重要性を認識し、2023年度の藤前干潟クリーン大作戦において本格的にマイクロプラスチックの収集の取組みを始めた。

2024年度の藤前干潟クリーン大作戦ではマイクロプラスチックの収集をより広く行った。地元であり、授業で藤前干潟のごみ問題を学習している愛知県立南陽高等学校の生徒や、中部大学NPO・ボランティアセンターの学生、一般参加者に呼び掛けて、マイクロプラスチックが堆積しているヨシくずや少量の土などを回収し（写真2.11）、そのまま全てごみ袋に入れて回収（写真2.10）、名古屋市環境局に処理してもらうことができた。なお、マイクロプラスチック収集に参加した学生や一般参加者には、マイクロプラスチックの問題点やマイクロプラスチックの種類、マイクロプラスチック

の収集方法等を説明した後、収集にあたってもらった（写真2.9）。その結果、2024年度の春の清掃活動で54袋（45Lのごみ袋）、秋の清掃活動で4袋（同）のマイクロプラスチック（ヨシくずや土などを含む）を回収することができた。清掃活動参加者は、最初は大きなごみしか目に入らないが、マイクロプラスチックについて知ると小さなごみに目が行き、夢中になって小さなごみを拾ってくれるようになり、マイクロプラスチックの普及啓発は今も重要だと感じる。一方で、当実行委員会の今までマイクロプラスチックの活動やウェブサイトでの発信を見聞きして、マイクロプラスチックを拾う準備を予めして活動に参加する一般参加者が見られるようになり、マイクロプラスチックの収集の取組みは定着の段階に入っていることを実感している。今後もマイクロプラスチックについての活動を進めていきたい。

#### (2) 流域間等の交流（三郷の川のクリーン大作戦、ごみと水を考える集い）

2024年度は藤前干潟に注ぐ土岐・庄内川の最上流にある岐阜県恵那市で開催された「三郷の川のクリーン大作戦」に少人数ではあるものの継続参加し、地域で活動する人々と交流し、お互いの活動について情報交換することができた。

また、12回目となる「ごみと水を考える集い」を開催し、藤前干潟や土岐・庄内川流域、伊勢湾流域で活動をしている団体および個人の56名が集まった。集いでは、「伊勢湾流域圏の海ごみ対策～三県連携の取組とメディアを用いた情報発信～」というテーマの講演を佐々木健司氏（八千代エンジニアリング(株)）と千葉賢氏（四日市大学環境情報学部）から聞き、私たちのすむ岐阜県・愛知県・三重県からの伊勢湾へ流れ出るごみについての現状や活動などについて知り、考え、交流を深めた。また、講演後はごみに関する活動をする中学生や高校生、市民団体の報告を聞き、各地の現状などについて意見交換を行った。

参加者からは、「講演の途中に参加者同士で話し合う時間が設けられていて良かった」、「中学生や高校生などの若い人が熱心に活動し、しっかり発表されていて刺激を受けた」、「他の場所で行われている多様な活動を知ることができて良かった」などの感想があり、参加者の交流が深められたと感じている（参加者の感想は別紙6の第12回ごみと水を考える集いアンケート集計結果参照）。

#### (4) 報道について

2024年度の藤前干潟クリーン大作戦実行委員会の活動に関わる報道は以下の7件だった（それぞれの詳細は別紙9～12）。

- ① 6月22日あつた・みなとホームニュース掲載
- ② 11月15日テレビ愛知「キンドニーチ」放送
- ③ 11月23日あつた・みなとホームニュース掲載
- ④ 11月9日Yahoo!ニュース掲載
- ⑤ 11月10日Yahoo!ニュース掲載
- ⑥ 11月17日Yahoo!ニュース掲載
- ⑦ 2月9日中日新聞掲載

### 3.2 計画の妥当性

2024年度は計画していた2回の大規模清掃活動（「第40回’24春の藤前干潟クリーン大作戦」および「第41回’24秋の藤前干潟クリーン大作戦」）、土岐・庄内川最上流の清掃活動「三郷の川のクリーン大作戦への参加」、そして「第12回ごみと水を考える集い」を多くの協力を得て無事行うことができた。

大規模清掃活動「藤前干潟クリーン大作戦」の計画にあたっては、多くの参加者を安全に受け入れるために、今までの経験を生かして駐車場の確保とスムーズな駐車誘導の準備をし、参加者に車の相乗りや熱中症対策を呼びかけた他、清掃時の足元の安全確保などの対策の打合せを関係者と重ねた。この結果、第40回’24春および第41回’24秋の藤前干潟クリーン大作戦ともに、駐車場がほぼ満車となったが、大きな混乱はなく駐車場誘導などを行うことができた。また、清掃活動についても大きな怪我や熱中症などはなく行うことができた。この活動を通して、多くの参加者が藤前干潟のごみと水の現状を知り、河川環境保全やごみについて考える機会を提供できたと考えている。

流域の抱える問題の現状を知り、交流を深めることを主目的として開催した「第12回ごみと水を考える集い」には56名という多くの参加者があった。藤前干潟や伊勢・三河湾流域のごみの現状や課題を共有し、交流することができた集いとなった。

これらを踏まえて、2024年度の活動の計画は概ね妥当であったと考える。

### 3.3 目標に対する到達状況

成果目標として「藤前干潟の清掃活動を継続してごみを減らす」、「マイクロプラスチックや釣りごみ等の新たに問題となっているごみの現状を広める」、「藤前干潟や流域の現状を広め、生活や社会から出るごみについて考え行動する機会を提供し、流域の河川環境保全を推進する」を掲げていた。

2024年度も2回の大規模清掃「藤前干潟クリーン大作戦」を計3,412人（延べ）の参加者と一緒に行い、清掃活動を継続することができた。

マイクロプラスチックについては藤前干潟クリーン大作戦の中で大規模な収集を継続して行うことができ、計58袋(45Lのごみ袋)を藤前干潟から取り除くことができた。釣りごみについては、「第12回ごみと水を考える集い」において、藤前干潟の釣りごみ対策について取り上げ、知ってもらえる機会を設けた。

上述の藤前干潟クリーン大作戦と第12回ごみと水を考える集い等の活動を通して、藤前干潟や流域のごみなどの現状を見て、知って、考えて、行動する機会を非常に多くの人に提供でき、流域の河川環境保全の推進に貢献できたと考えている。

### 3.4 河川管理者等との連携状況

藤前干潟に注ぐ土岐・庄内川の河川管理者である国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所からは、当実行委員会は河川協力団体として認定を受けており、活動に対して支援を受けている。当実行委員会の発足時から打合せに出席いただいている他、適切な指導やアドバイスを受けるとともに、河川状況や工事などの情報交換を頻繁に行い、「協働」の立場で河川環境の改善や保全を進めている。

また、同じく藤前干潟に注ぐ新川と日光川の河川管理者である愛知県尾張建設事務所にも活動開始時から協力やアドバイスを得ており、スムーズに安全に清掃活動ができるよう配慮いただいている。

さらに、藤前干潟は国指定鳥獣保護区であり、環境省の公共施設（藤前干潟活動センターおよび稲永ビジターセンター）や自然保護官事務所があることから、環境省中部地方環境事務所にも協力を得ており、生物保全や干潟観察会などのアドバイスを得たり、干潟観察会の講師対応を依頼したりしている。

この他、名古屋市とも非常に深く連携しており、港環境事業所には大量のごみの回収と処理をしていただいている。また、環境局は藤前干潟の普及啓発事業を多く実施しているが、環境局が事務局を務める「藤前干潟ふれあい事業実行委員会」の協力事業として藤前干潟クリーン大作戦を位置づけていただいている、熱中症対策物資提供や駐車場の提供等の協力を得ている。

今後も上記の機関等とより良い関係を維持し、協力を得られるよう努力していく。

### 3.5 今後の展望

20年もの長期にわたって継続してきた清掃活動「藤前干潟クリーン大作戦」は、多くの関係者の協力によって、地元住民および流域の恒例行事として定着し、2024年度も多くの人々の参加を得ることができた。一方で、実行委員会の構成団体や関係団体のメンバーには高齢化という問題が差し迫ってきており、実行委員会の運営の一部を担える若い世代の新規の参入を引き続き目指すとともに、負担軽減策を今後も工夫して考え、活動が継続できる体制を整えていきたい。

また、取組みはじめたマイクロプラスチックや釣りごみへの取組も継続し、地域や流域の関係者とともに発展させて、藤前干潟とその流域のごみ削減を主とする環境改善とごみの生まれにくい社会づくりへの貢献を目指していきたいと考えている。

#### 【参考資料】

別紙1：藤前干潟クリーン大作戦実行委員会の歩みとこれまで取り組んだ活動

別紙2：第40回'24春の藤前干潟クリーン大作戦の案内チラシ

別紙3：第41回'24秋の藤前干潟クリーン大作戦の案内チラシ

別紙4：第12回ごみと水を考える集いの案内チラシ

別紙5：第12回ごみと水を考える集いの配布資料

別紙6：第12回ごみと水を考える集いのアンケート集計結果

別紙7：国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所による第40回'24春の藤前干潟クリーン大作戦の報告書

別紙8：国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所による第41回'24秋の藤前干潟クリーン大作戦の報告書

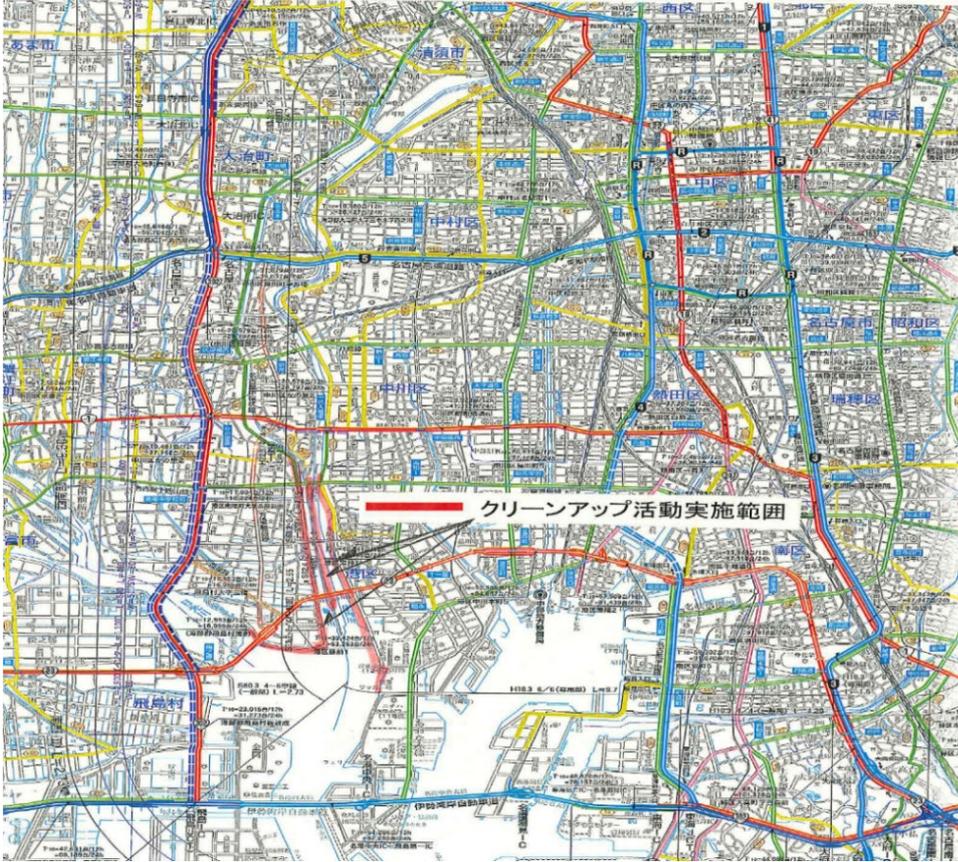
別紙9：2024年度の藤前干潟クリーン大作戦実行委員会の活動に関わる報道

別紙10：別紙9の補足資料

別紙11：別紙9の補足資料

別紙12：別紙9の補足資料

以上

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2024-6112-011	藤前干潟クリーン大作戦・流域圏交流事業	藤前干潟クリーン大作戦実行委員会 実行委員長 坂野一博
主な実施箇所	藤前干潟クリーン大作戦実施会場：藤前干潟周辺（下図参照） 三郷の川のクリーン大作戦会場：岐阜県恵那市三郷町野井川 第12回ごみと水を考える集い会場：藤前会館（名古屋市港区）	
助成事業の主な実施箇所	<p style="text-align: center;"><b>藤前干潟クリーン大作戦実施箇所 位置図</b></p>  <p style="text-align: center;">クリーンアップ活動実施範囲</p>	
	遠景	近景
河川基金ロゴ等表示状況写真	<p>第12回ごみと水を考える集いにて</p> 	<p>第41回 '24春の藤前干潟クリーン大作戦にて</p> 